



SPRING HILL NEWS LETTER

掃除から、学んだこと

12月にはクリスマス、忘年会等のシーズンでもあり、大そうじを行う「そうじ」のシーズンでもあります。今回は、「そうじ」のお話を。私は職業柄、さまざまな会社に伺うことがあるのですが、それぞれの会社に社風があるように、各社毎に掃除の文化があるように思います。いざという時に探しものをせずに、すぐに道具が取り出せるための環境整備という意味で、そうじをする会社もあれば、「そうじをすると心が整う」という精神的な効用を期待している会社もあります。私が印象に残っている会社は、愛知県にある食品関係の会社。その会社では、「毎朝、数十センチ×数十センチという狭いスペースを時間をかけてきれいにする」というのがルーティンになっていました。なぜ？と疑問に思いましたが、それには理由がありました。毎日、同じ場所をきれいにすることで、昨日は見えなかった汚れが今日は見えたり、汚れた理由と向き合うことで、次は汚さないようにしようと反省できる力を養うという狙いがありました。実際に効果があるようで、社長が世代交代された後でも継続されていました。その取り組みを知ってからは、同じことを行う際でも、以前より、良くしていこうと思うようになりました。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

編集長「梶田」のつぶやき・・・

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

最近思った事として・・・。野球の日本シリーズが終わり、野球選手の契約解除のニュー

モノやコトの「終わり」から思う事

スをよく見にしました。一時代を築いた選手も中にはいて、なんだか残酷で、そして「まあしょうがないよね」と思った事を記憶しています。またそんなときに、近所のおじいさんが亡くなったとの連絡が携帯に入り、「あー、時間の流れと共にいろんなモノやコトが終わっていくんだなあ」と感じました。少し前に山本 KID もガンで亡くなって、人は突然死んでしまうんだと、これまた再確認した記憶があります。ちなみにホリエモンは、「死ぬこと」に対してケアをしているみたいで、電車に乗る際やタクシーに乗る際など、細かいところにも気を付けて「死のリスク」を減らしているとの事です。どうします？明日死んだら？以前書いた「ティアの社長の話し」にもありましたけど、生と死は紙一重らしいですからね・・・。うーん、困りますよね・・・死んじゃったら・・・。政府も定年制を70才にしようとしていて、人生100年時代に備えようとしています(なるのか?)。昔はなかったのに、いわゆる「現代病」なるものがあって、いろいろ生きるのも大変ですよ・・・。まあ前からですが、私は「健康」がテーマなので、最近新たに1冊の本を買いました。結構面白そうな本なので次回シェアしたいと思います。



「記憶に残る」写真の撮り方について

今の時代は、SNSの普及率が高まり、カメラ自体もリーズナブルな価格でいいものが買えるようになったこともあり、カメラはより身近な存在になりました。スマホのカメラでも十分ですが、一眼レフを、と手を伸ばした方も多いのではないでしょうか。私もその一人。カメラの世界には、様々な画角の交換レンズがあり、それを使い分けていく楽しさに気づきました。その魅力にハマってしまい、資金を注ぎ込んでしまう方も多いうので、「レンズ沼」と言われているようです。私もここ数年で、様々なレンズに手を出しました。最近のカメラは、オートフォーカス(AF)が優れ、簡単にピントのあった写真が撮れるのですが、私がおもしろいなと思ったのは、マニュアルフォーカス(MF)のレンズです。AFが、簡単にピントを合わせてくれるのに対して、MFの場合、いちいちピント調整を手動で行わなければいけません。手間ひまがかかるものですが、その手動でピント調整をしている時間は、不思議と記憶に鮮明に残ります。あとで写真を見返した時、その時の記憶が蘇ってくるのです。デジタルカメラはメモリーカードに画像を記録しますが、MFはそれと同時に、「あの時、立ち止まって撮ったな」と記憶にも残してくれます。